

「僕の思い」

僕は、障がいを持って生まれました。そのため、困ることや嫌な思いをすることが毎日あり、僕とは違う障がいを持った人も同じような思いを持っているのではないかと思います。

僕は、障がいがあってよかったと感じたことははっきり言ってありません。きっと障がいを持っているほとんどの人が、障がいがあってよかったことは「ない」と答えると思います。逆に障がいがあって悪かったと感じることはたくさんあります。たとえば、僕は毎食後薬を飲まなければなりません。でもそれは面倒だし、薬を飲み忘れないように気をつけておくことが苦手で嫌になります。嫌な気持ちになった時に励ましてくれる人がいたら嬉しいです。周りの人にそんなふうに言ってもらうためには、まず僕の病気について知ってもらい、わかってもらえるように伝えなければならないと思っています。そのために、自分の病気をしっかりと分かっておくことが必要です。自分の病気をしっかりと分かっておくためには、僕の病気についていろいろ知っている母や父、そしてお医者さんなどに、疑問に思ったことは聞くようにすることが大切だと思います。「みんなの場合はこうだけど、僕の場合はこうなんです。」と分かりやすく説明できるくらい理解はしたいです。自分の病気について人に説明できないと、自分の気持ちを分かってもらえないと思っています。また、困っているときに助けってもらうのも難しくなります。僕の心臓は病気ですが、外見からは分かりにくい内部障害なので、そのことを知らない人には僕が病気を持っているのかがわかりません。だから余計に自分から伝える必要があると感じています。

誰もが暮らしやすい世の中にするために、これから僕は、障がいのある人でもそうでない人でも困っていきそうな人がいたら迷わず、「大丈夫、どうしたん？」などの優しい声かけをしたいと思います。そうすることで、声をかけられた人は他の人にも声をかけ、その人がまた他の人に声をかけるようにと、どんどん広がっていったら優しく声をかける人が増えていくと考えています。今、僕の考えていることが世界中に広がっていけば、だれもが暮らしやすい世の中に近づいていくと信じています。